



本を借りる人がいると、私も張り合いがあります

Interview

移動図書館やまびこ号ドライバー

## 中道一美さん(上長尾)

昔に比べて、やまびこ号の利用者は減ったように思います。近年では、ほぼ横ばいの状況ですね。子どもの数が少なくなったこと、高齢者が増え、借るのが難しい人が増えていることなどが、利用者減少の一因かもしれません。地区ごとに見てみれば、大間のように利用者が増えているところもありますが、逆に、全く借りる人がいない地区もあります。もっとやまびこ号を定着させたいという気になりますね。

停車地に行くと、常連のお客さんが待っていてくれることもあり、そういった顔を見るとうれしくなりますね。常連さんとの会話も楽しみの一つです。

日によっては、ほとんど利用者がいない日もあります。そんな時は「知り合いなども誘って、もっと利用してくれたら」と思ってしまいます。借りる人がいてこそ、こちらも張り合いがあるというものです。

### 移動図書館やまびこ号

町内を巡回し本を貸し出します。車いす乗降用リフトや広めの通路など、使いやすい工夫が随所に。利用は図書カードに記入するだけ。広報紙の「くらしのカレンダー」で運行日の確認を。文化会館 ☎ (59) 3106



### 山村開発センター図書室

役場本庁舎横の図書室。一般書から児童書、紙芝居など幅広く取りそろえています。本の貸し出しは、管理室で図書貸し出しカードに記入するだけです。町民のみ。定員10人。上長尾627 ☎ (56) 2231



### 文化会館図書室

文化会館2階。蔵書は約1万冊。一般書から児童書までそろっています。利用方法は文化会館職員に一声かけ、図書室内にある貸し出し簿に記入するだけです。町民のみ。定員35人。東藤川909-1 ☎ (59) 3106



### 町の図書施設

ご利用ください  
町内の図書室では、小説、児童書、実用書など充実した図書環境を整えています。毎月新刊書などを入荷することで、読者のニーズにも対応しています。近隣市町の町史などもあり、調べ物にも最適です。やまびこ号は週3回、各コースを巡回しています。「図書室まで行くのが大変だ」という人は、ぜひやまびこ号をご利用ください。

出るエキスや、かつお節などでダシが取れないので、うどんのつゆやラーメンのスープが全く違うものになってしまいました。考えてみると、肉がないだけでこれだけ多くの食べ物が食べられなくなることに驚きました。私たちは肉のある生活が当たり前だと考えているはずですが、もちろん私もそう考えていました。しかし、この本を読んで自分には気にも止めていなかったことに気付かされました。それは当然のことながら、殺されてしまいう生き物と、それを殺さなければならぬ人がいるということとです。この本を読み、動物がどのような方法で殺され、解体されていくのかを初めて知りました。とても残酷でした。しかし、豚や牛などの生き物を殺さなければ、人は肉を食べることができないのです。とても複雑な気持ちです。牛や豚は痛みを与えないような殺し方をしていくのですが、実際にその作業をする人はとても嫌な気分だと思います。自分なら絶対にやりたくありません。自分から「やりたい」という気持ちでやっている人はいないのではないかと私は思います。この仕事をやっている人は、嫌な思いをしなが

もつと戦争の事を知りたくなつたので平和記念施設を訪ねてみたくなった。  
最後に明るい表の顔とともに重い歴史を背負った裏の顔がある事と、こんな悲しい戦争があつた事を後世に伝えて行きたい。

高校生・一般の部

川根高校2年 植村雅紀

### いのちの食べ方

私は、この「いのちの食べ方」という本を読んで今まで考えもできなかったことを考えることができました。その一つが肉の正しい生活です。

私は今まで肉のない生活を考えたことがありませんでした。肉がない生活とは、肉がなくなってしまうこと、肉がなくなると食べることができないということとです。肉が食べられないと、自分達の食生活から多くの料理が消えてしまいます。私の好きな、ハンバーグやソーセージ、焼き肉が食べられなくなってしまうのです。肉のないカレー、マーボー豆腐なんて考えられません。肉といえば魚も立派な肉です。魚も食べることができなければ刺身や、焼き魚も食べられなくなります。さらに肉から

ら、日本国民のために働いているので、みんなにぜひこのような職業があるということを知ってもらいたいです。  
昔、この肉の処理をする人はけがれていると言われたそうです。その身分は、カワタと呼ばれていて後に穢多・非人と呼ばれるようになった人たちです。この身分は本当に悲しいと思います。なぜなら、他の職を探そうとしても、血筋で採用されなかつたりして、職がこれしかないという人が多かつたからです。血筋で差別するなんてとてもひどいことだと思います。そして他の人のために肉や皮をさばっていたのにけがれているとか言われ差別されていたなんておかしいことだと思います。さらに、政府の思惑でこの身分はなくなつたというのにも驚きました。他の農民の、はけ口のために、この身分をなくさないなんて、昔の政府はどうかしていると思えました。人も差別するだけかを望むなんてとても悲しいことです。この人たちのおかげで、動物の肉や皮を利用できるのにこんな扱いをするのはひどいと感じます。この差別が当然、当たり前となってしまうのは悲しいことです。

## この本を読んで私は「知る」ことの大切さを改めて感じました。当たり前前のことを、本当は自分は何も知らないのかもしれない――

植村雅紀

筆者は当たり前前になるというのが恐いのだとこの本で言っています。当たり前前となるとそれ以上を知ろうとせず、思考が停止してしまうのだそうです。確かに私も当たり前前のことをそれ以上追究しようとは思いません。そうすると大きな事では戦争になつてしまうのだそうです。知る事で解決できるのに、知ろう

としないから解決しない。それが当たり前前となつてしまつていくから戦争がなくなることはない。知ることの大切さを感じました。「人は当たり前前の事である人はみな同じ」という事を改めることが必要。そうすれば差別がなくなり戦争は解決する。私もそう思います。知ることによって解決することができるのです。

肉のことだけでなく、この本を読んでいて私は知ることの大切さを改めて感じました。自分には知っていない気になつていても何も知らない。当たり前前の事を、本当は自分は何も知らないのかもしれないと思えました。肉を食べることもそうです。肉を食べる事が当たり前。しかし、なぜ当たり前前なのかを考えた事が

ありませんでした。その裏では、辛い思いをして、私たちに肉を届けてくれる人がいるということとです。そして私たちがのために命を落として、私たちの食となつてくれる生き物たちがいます。このような事を本気で考えたことはありませんでした。この本はこのようなことを考えるきっかけを私たちに与えてくれました。私たちは様々な事から目をそむけているのかもしれない。これからは、知らないことを知りたいという気持ちを持ち、多くの事に目をそむけず、向き合っていければいいと思います。